

波岡茂郎先生のご逝去を悼む

元家畜衛生試験場細菌第2研究室長
日本獣医史学会評議員 佐藤 静夫



日本獣医史学会名誉会員の波岡茂郎先生は平成26年4月22日に84歳で逝去されました。先生は、平成8年以来、理事、監事あるいは編集委員として、20年余の長きにわたり本会の活動に多大なご貢献をされました。先生は、昭和4年8月22日に御出生、昭和24年3月に盛岡農林専門学校獣医科を、次いで昭和27年3月に北海道大学農学部獣医科を卒業され、同年4月に農林省家畜衛生試験場調査部細菌第2研究室に助手として任用され、昭和34年9月に研究第一部第1研究室に移動、昭和40年4月に同室長に就任されました。その後、昭和49年4月に北海道大学獣医学部家畜内科学講座の教授、昭和61年4月には新設された実験動物学講座の初代教授、さらに5月に獣医学部長に就任され、平成5年3月に定年退職されて北海道大学名誉教授にられました。この間、学内での評議員や各種委員会委員を、また学外では日本獣医学会理事を昭和60年4月から平成9年3月まで務められ、その間、平成3年4月から平成6年3月まで副理事長に就任されました。また、実験動物学会理事を昭和63年から平成5年まで務められました。

波岡先生は、家畜衛生試験場細菌第2研究室で、坂崎利一先生に師事され、腸内細菌の分類学的研究論文「*Proteus*に関する研究」により昭和34年に北海道大学から獣医学博士の学位を授与されました。また、細菌第1研究室へ移動後は、家畜・家禽のパスツレラ症の原因菌である *Pasteurella multocida* の菌体O抗原の解析を進め、昭和36年5月から1年間の米国コーネル大学留学中の研究成果を含め新たに“波岡の分類”を確立されました。

さらに、先生は実験動物としてあるいは将来の企業養豚の発展にはSPF豚の開発が必須であるとされ、昭和38年から作出実験を開始され、昭和40年5月下旬に最初のSPF豚作出に成功されました。これによりSPF豚による各種感染症の研究が可能となり豚病の防除技術の開発に著しく貢献され、さらにSPF豚の一部は畜産目的で官・民の養豚場に配布され、わが国養豚界へのSPF豚導入の先駆けともなりました。

先生は北海道大学獣医学部教授時代にも豚の消化管免疫機構や実験動物としてのミニブタに関する研究などを展開され、大学退官後も全農および傘下の(株)科学飼料研究所(1993-2008)の非常勤嘱託として畜産現場への応用研究を指導されました。また、先生は平成3年発足の日本SPF豚協会による「SPF豚農場認定制度」の認定委員会の初代委員長に就任され、終生、委員としてSPF豚の正しい発展に貢献されました。このような先生のSPF豚に関する先駆的な業績「実験動物および産業動物としての、ノトバイオート・SPF豚の作出に関する研究」に対して、平成8年の越智賞(第8号)が授与されました。

なお、波岡先生が14歳で洗礼を受けられ、ルカというクリスチャンネームを持っていることを葬儀の場で初めて知り、先生の忍耐心と柔和なお人柄は共に若き日からの信仰心により培われたものと感銘をうけました。ここに波岡先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

SATO Shizuo : Eulogy upon Dr. NAMIOKA Shigeo